

ぼくが犯罪・非行を防止するために大事だと思うのは、「思いやり」と「笑顔」です。

ぼくには、起立性調節障がいという持病があります。これは、自律神経という、体内をベストな状態に保ち続ける神経の働きが悪くなり、身体や脳へ流れる血が少なくなる病気です。今までは、激しい運動をした後に、ふらふらしてしまうていどでした。しかし、五年生に進級してしばらくすると、朝に起きられないほど悪化してしまいました。学校に行けない日が増え、学校に行ってもすぐにしんどくなり、これまでの学校生活ができなくなりました。この時、ぼくの頭の中に、勉強が追いつけなくなるという、一つの「不安」がよぎりました。みんなに置いて行かれたくなかったので、少しでも勉強をするために学校に行こうと思っていましたが、なかなかうまく学校へ行くことはできませんでした。

しかし、もうすぐ夏休みかというところに、少しずつ学校に行けるようになったのです。これは、ある友だちが、あるいはみんなが、ぼくが学校に行くだけで喜んでくれたことで、自信がついたからだと思います。また、一部の友だちが、毎日、

「今日の体調はどう？」

と聞いてくれたこともありました。こういった友だちの行動から、前まで勉強や成績のために学校に行っていたけど、みんなを喜ばせるため、つまり「みんなのため」に学校に行くようになりました。この病気はとても大変な病気だけど、この病気になったからこそ、みんなのためにがんばることができるようになったと思います。それに、ぼくががんばって学校に行くと、みんながとても喜んでくれて、自分までうれしくなってきました。そこで、全ての人が自分のために何かをするのではなく、みんなのため、社会のために何かをしようと考えられれば、犯罪をへらすことができるのではないかと思いました。

もう一つ、ぼくの祖母は社会を明るくする運動として、地域の健康推進委員をやっています。祖母の話によると、「病は気から」という言葉があるように、健康でいるためには笑顔でいることが大事だそうです。つまり、笑顔でいられるポジティブな状態では、病気になりにくいということです。

他にも、祖母たちは交流を大切にしているそうです。出会うと元気がでるし、目の前の人から活力をもらえるからです。この時、ぼくは、祖母たちだけでなく、全ての人たちが人と交流し、出会い、その中で元気を受け取ったり、与えたりして生きているのではないかと思いました。つまり、祖母たちが地域の人たちと助け合っているように、ぼくたちも身近な人と助け合っていくことが、犯罪や非行のない、より良い未来につながっていくのではないのでしょうか。

そして、これからぼくは、助け合いながら。ぼくが人にしてあげられる、思いやりのある行動でみんなを笑顔にしていきたいです。